

# 土方巽トリックスター

慶應義塾大学アート・センターでは、2008年に「1968年」展を開催し、土方巽の舞踏公演〈土方巽と日本人〉をめぐってアーカイヴ資料を紹介しました。限られた資料を展示するとともに、1968年10月に日本青年館で行われたこの公演が〈肉体の叛乱〉と呼称されるようになる経緯を探り、ひいてはこの舞踏公演の意味を問いかけました。

公演に先立ち、自らを「ニホンのオドロのオリジン」と宣言した土方巽は、1965年の田代での「鎌鼬」の撮影、初の暗黒舞踏派による公演「バラ色ダンス」、高井富子舞踏公演「まんだら屋敷」などで「民俗日本」を追求してきて、満を持しての1968年の〈土方巽と日本人〉であったはずです。

しかし、舞台に顕著だったのは「肉体」でした。「暴力」と「倒錯した性」の肉体が露呈され、日本青年館の満員の観客の歓声は、同じ年、同じ月の東京の街頭や大学構内でのシュプレヒコールと交錯したといえます。

舞台の上の肉体は反乱したのです。しかし、土方巽の舞踏は、ただ斑状にあって、舞台上の真鍮板のように光を乱反射させただけだったのかもしれませんが。そして、翌69年1月、東大・安田講堂の攻防と落城。2月、磐梯熱海温泉で舞踏家の若者2人の焼死。こうして、〈肉体の叛乱〉の数カ月後に時代が変転します。

本展では、1968年の〈肉体の叛乱〉を呈示しつつ、1970年代のダンスの構造と方法の大変革に向かう、その後の2年間の土方巽も探ります。その後の2年間の土方巽の肉体は、拐引されるようにフィルムやグラビアに集中的に収められ、「魔神」とも「悪霊」とも「呪術師」とも「奇形児の王」とも呼ばれて、異形の土方巽がメディアに氾濫したのです。

土方巽自身は「犬の静脈に嫉妬する」と言って、自らを「不具者」でありたいとも述べています。はたして、土方巽は「アブジェクト（おぞましきもの）」であったのでしょうか、「トリックスター」であったのでしょうか。

いずれにしても、〈肉体の叛乱〉から50年後の2018年に至って、土方巽の舞踏をアブジェクション、つまり「復活劇」として評価するかのように、二つの舞台作品が現れています。一つは、Choy Ka Faiの“UnBearable Darkness”(〈存在の耐えられない暗黒〉)であり、もう一つはAMAREYA THEATREの“DEADMAN EATING WATERMELON”(〈スイカを喰らう死者〉)です。

本展では、映像展示と実演によって、この「存在という間」と「死という古典」による「肉体」を紹介します。

「私は私の作品」と主張していた土方巽は、50年後の今日においても「文化英雄」であるのでしょうか。「土方巽」をめぐる展示がいつでもそうであるように、本展でもまた、「土方巽とは誰か」「土方巽の舞踏とは何だったのか」をめぐって再考します。

主催：慶應義塾大学アート・センター 協力：細江英公写真芸術研究所、土方巽アスベスト館、深瀬昌久アーカイブス、曾我傑、北畠正久 宣伝美術：岡部正裕  
企画・構成：土方巽アーカイヴ

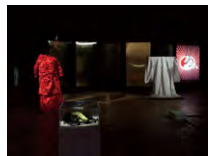
慶應義塾大学アート・スペース 東京都港区三田3-2-5 南別館(大学正門向かい) JR田町駅、都営地下鉄浅草線・三田線三田駅から徒歩6〜8分  
慶應義塾大学アート・センター 東京都港区三田2-15-45 TEL: 03-5427-1621 FAX: 03-5427-1620 http://www.art-c.keio.ac.jp/

## 肉体の叛乱 1968-2018 Rebellion of the Body

### 「展示」 慶應義塾大学アート・スペース

|         |                                     |  |               |             |
|---------|-------------------------------------|--|---------------|-------------|
| 示       | 中村宏「肉体の叛乱」(舞台記録映像)                  |  |               |             |
|         | 映像<br>チョイ・カファイ「存在の耐えられない暗黒」(舞台記録映像) |  |               |             |
|         | 『「肉体の反乱」を朗読する」大野慶人、笠井毅、四谷シモン、福島泰樹   |  |               |             |
| 衣裳・オブジェ | 赤ドレス                                |  | 布プリント         | 種村季弘「肉体の反乱」 |
|         | 模造男根 土井典                            |  |               | 印刷物         |
|         | 石造男根 (北畠家)                          |  |               |             |
|         |                                     |  | 藤森秀郎「土方巽と阿部定」 |             |

### 旧ノグチ・ルーム 舞台美術 | 中西夏之「人体イエロープリント幕」



ツールーズ  
「土方巽展  
Le Printemps de Septembre –  
à Toulouse」  
撮影：半田昌弘



「〈肉体の叛乱〉  
昇天」  
撮影：中谷忠雄



「〈肉体の叛乱〉赤ドレス・  
黒グロープ」 撮影：中谷忠雄



「〈肉体の叛乱〉少女」  
撮影：中谷忠雄

### 「関連イベント」 旧ノグチ・ルーム(三田キャンパス南館3階ルーフトラス) | 入場無料・申込不要 / 10月3日(水) 19:00

公開研究会 [『20世紀舞踊』を検証する]  
幻の舞踊誌とされていた『20世紀舞踊』の創刊号(1960年7月1日)と第2号(1960年7月15日)が池宮信夫資料から発見されました。  
1960年代のダンスの実験を主導した『20世紀舞踊』とその時代のダンスを再考します。  
報告：うらわまこと、山野博大(20世紀舞踊の会同人)  
パフォーマンス：池宮中夫ソロダンス N=叛乱の待合所

### 10月4日(木) 19:00

Dance Medium & UNFIX 「曼珠沙華」〜地上に咲く花、天界に咲く花〜  
振付・演出：長岡ゆり、正朔  
出演：長岡ゆり、正朔、Paul Michael Henry、Yokko、Bob Lyness、  
吉崎康佑、ホンダリョウ、Mario Horenstein 他  
天界の土方巽へのメッセージ

### 10月5日(金) 19:00

Threads  
演出：Rosa van Hensbergen (UK)+石本華江 舞踏：石本華江 音楽：Soosan Lolavar  
助成：the Sasakawa Foundation  
糸、系譜の糸譜の土方巽

AMAREYA THEATRE “DEADMAN EATING WATERMELON”  
アマレヤシアター「スイカを喰らう死者」  
performance: Katarzyna Pastuszek Aleksandra Sliwinska  
ポーランドから土方巽の叛乱を applause!!



立花秀輝(アルトサクセス)  
14分34秒のフリージャズの叛乱

復刊! 絶版だった『肉体の叛乱―舞踏1968 / 存在のセミオロジー』(定価1,000円)を再版・刊行します。

予告 アート・センター25周年 アーカイヴ開設20年記念シンポジウム  
研究フォーラム 10月26日(金) 19:00より 三田キャンパス  
シンポジウム 11月17日(土) 14:00 三田キャンパス北館ホール

### アート・アーカイヴ資料展 XVIII

### アート・センター周年事業

### KUACアート・アーカイヴ20周年



## 肉体の叛乱 1968-2018 Rebellion of the Body

撮影：深瀬昌久

凶兆をはらんだ  
大地母神の陵辱  
狂気のフロマフロディトス  
勃起男根  
畸形の子  
始原的な身体衝動の記憶  
徒刑囚の肉体  
飼いならされた動作  
肉体の反乱たる舞踊  
労働と能率の囚人  
肉体のバスティーユ監獄  
ニジンスキーの肉体  
暴動は舞踊である  
奇怪な風見鶏  
卑賤な白痴男  
馬鹿王  
魔を祓う  
不吉な天気男  
不死の人  
光栄ある肉体の反乱  
舞踊の主魁  
不浄ふれるべからざるシャーマン

会期：2018年10月1日(月) - 11月2日(金)(土日祝、閉館) 11:00-18:00 入場無料

場所：慶應義塾大学南別館1階 アート・スペース

HUJIKATA Tatsumi as trickster





UnBearable Darkness Performance  
28-30 June 2018 Tanzhaus nrw Dusseldorf  
Image by Katja Illner

CHOY KA FAI  
“UnBearable Darkness”

チヨイ・カファイ 存在の耐えられない暗黒



UnBearable Darkness Work-in-Progress  
12-13 Feb 2018 KAAT Yokohama, TPAM 2019  
Photo by Hideto Maezawa